

宮城県産業振興審議会水産林業部会(平成29年7月27日開催)における委員からの意見に対する対応

区分	番号	意見要旨	対応状況 (新ビジョン最終案への反映項目等)	発言者
宮城の森林、 林業・木材産 業が目指す姿	1	宮城の森林、林業・木材産業が目指す姿を表した図について、循環を表すのであれば、右回りにした方が分かりやすい。	御意見を踏まえ、最終案p22の図のとおり修正しました。	木島委員
	2	もっと持続可能性を強調してはどうか		佐藤専門委員
取組1	3	直送が主流の時代にあえて高コストとなる木材ターミナルの整備を行う必要があるのか疑問。	素材需給調整機能が必要と考えており、取組1の取組方向に「製材、合板、バイオマス等、それぞれのユーザーが求める丸太の品質・規格と素材生産者が生産する丸太のマッチングを図る仕組みの構築や施設の設置」と記載しました。	大内専門委員
取組2	4	素材生産量を増加させても、地元の製材工場や合板工場で利用されなければ意味が無い。県内の需要工場において、県産材の利用拡大を図る取組を強化する必要がある。	御意見を踏まえ、取組2の取組方向に「森林認証を受けた県産木材及び木製品などの海外輸出支援」を追加しました。	大内専門委員
	5	輸出に関する取組が出てこない。入れ込むべきでは。		亀山専門委員
	6	輸出に関してももっと取組があった方がよい。		佐藤専門委員
	7	輸出に関しては、森林認証を受けた木材以外にも支援をお願いしたい。		大内委員
取組3	8	森林所有者の特定が難しく苦慮している。解決の方向性を入れ込むべきではないか。	林地台帳の整備により森林所有者の特定が可能となることから、整備を行う市町村への支援について取組方向に記載しました。	亀山専門委員
取組4	9	製材所からも負担をいただくなど、森林づくり支援センターの機能充実による再造林に対する支援強化が必要ではないか。	「森林づくり支援センター」の機能充実については、取組4のほか第5章重点プロジェクト2にも記載し、再造林に対する支援を強化することとしております。	大内専門委員
取組5	10	中山間地域においてクマ、イノシシの被害が増加して、生活を脅かす事態となっている。すぐにでも取り組んでもらいたい。	取組5の取組方向に「防鹿柵の設置等による食害防止対策に加え、野生鳥獣の捕獲、狩猟者の育成確保を実施」を記載しました。	青木委員
取組7	11	森林組合の合併を進め、組合員へのサービス向上を図るべき。	第4章第2節の取組7の目指す姿に記載のとおり、「森林所有者の負担に応え得る森林組合の自立的経営」を実現するための取組の一つとして、「組織再編等による組織体制の強化に向けた支援」を実施していくこととしております。	大内専門委員
取組8	12	特用林産の振興(農家レストランでの活用、6次産業化)について、もっと書き込むべき。	地域の取組として6次産業化による事例を記載したほか、取組11の取組方向や第5章のプロジェクト4においても、地域・産業間連携による特用林産物などの地域資源の活用について記載しました。	青木委員
取組9	13	花粉の少ないスギやエリートツリーなど人為的に作ったものを自然界に植えた場合にどのような影響を及ぼすのか、その視点を入れ込むべき。	林木の品種改良は、地域の森林から優れた個体を選抜し、交雑により改良した品種を、選抜した地域で再び利用することを基本としており、環境や地域の生態系に影響を及ぼすものではないものと認識しておりますが、取組にあたっては国の研究機関等と連携して進めていく旨を明記しました。	木島委員

取組10	14	林業に関する情報が末端の森林所有者まで全く届かない。	森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成を図るため、SNS等も活用しながら森林所有者も含めた幅広い世代に対する分かりやすい情報の提供に取り組んで参ります。	青木委員
	15	森林の役割について県民理解を得るための啓発活動を強化する必要がある。		大内専門委員
	16	一般県民に分かりやすく正しい知識を伝える努力をするべき。		亀山専門委員
取組11	17	FSC認証取得に対する支援制度について、森林環境に関するモニタリング等に対しても支援があると良い。	FSC認証取得に関する森林環境に関するモニタリングに対する支援等については、実情を整理した上、必要に応じて支援を検討して参ります。	佐藤専門委員
指標	18	補助指標は、次回の親委員会の時には数値化されるのか。	目標指標では、特に重要と思われる代表的な項目を設定しているところですが、政策・施策の進捗状況や達成状況を評価するためには、目標指標に掲げた項目以外にも多数の項目・因子があり、これらを踏まえて総合的に分析・評価することが重要であると認識しているところです。 このため、新ビジョンでは、これらの項目等を「補助指標」と位置づけ、現在想定されるものを例示したところですが、補助指標は予め固定せず、内容や状況に応じて適宜必要と思われる項目等を補足・引用しながら、それぞれの目標指標及び政策の達成状況を評価していくことを考えております。従って、補助指標につきましては、将来の目標を数値化することは考えておりませんので御理解願います。	岡田部会長
	19	木材価格の向上や、低コスト生産の推進に伴う山元立木価格の向上に関する目標指標も必要ではないか。	国産材の木材価格は代替品や輸入材との競争の中で定められる傾向があり、同様に山元立木価格はその木材価格により左右されるものであることから、施策の目標指標とすることは難しいと考えておりますので御理解願います。 但し、木材価格や山元立木価格は林業経営の状況を理解する上で非常に重要な因子であると認識しており、目標指標の達成状況を評価するに当たっては、補助指標として実績値等を適宜御報告して参ります。	佐藤専門委員
	20	将来目指す林齢分布を掲げたほうがよい。	近年、造林面積が著しく減少している実態を踏まえ、まずは誰にでも分かりやすく明快な指標として植栽面積を目標に掲げることにしたものです。将来の林齢分布については、今後、目標の達成状況等も踏まえながら検討して参りますので、御理解願います。	佐藤専門委員
その他	21	売り方を工夫して木材を高く売っていく工夫が必要。こういった内容は、第5章の先導プロジェクトで出てくるのか。	第5章に重点プロジェクト4として「地域・産業間連携による地域資源の活用」を追加し、地域の森林資源を活用した新たな製品開発等の取組を記載しました。	岡田部会長
全般	22	ビジョン全体を見ると、ざらりと流れすぎて(心に)引っかかるところがない。また、だれが取り組むのかという視点が無い。教育庁など他分野との連携などは相当の熱意を持って取り組まなければうまくいかないが、そういった覚悟が見えない。	100年後の宮城の森林、林業・木材産業の目指す姿の実現に向け、県がこの10年で取り組む施策の中でも特に力を注ぐ取組として第5章に「5つの重点プロジェクト」を追加し、第4章で掲げた12の取組では見えない連携などの表現を示しました。	須能委員
	23	各取組のロードマップを示すべき。	御意見を踏まえ、各取組毎に目指す姿の実現に向けたロードマップを追加しました。	木島委員

宮城県産業振興審会(平成29年8月22日開催)における委員からの意見に対する対応

区分	番号	意見要旨	対応状況 (新ビジョン最終案への反映項目等)	発言者
取組2	1	輸出についても最終的に反映されるものなのか。	取組方向に「森林認証を受けた県産木材及び木製品などの海外輸出支援」を記載しました。	笠間委員
取組11	3	グローバルGAP認証が今後重要になってくる。オリンピックまで取得するなど、ビジネス拡大のために記載してはどうか。	GAP認証等の取得支援について、ロードマップにまとめ記載しました。	伊藤農業部長
その他	2	農業では耕作放棄地の農地を中間管理事業として国が進めているが、林業ではこのような発想を持ってないのか、国で動いていないとすれば、宮城県が今後検討する必要があるのではないか。	現在、国では、森林所有者自らが適切な森林管理を行えない場合、当該森林の管理経営を意欲と能力のある林業経営者に委託する仕組みの創設を検討していることから、その動向も踏まえ必要に応じ検討を進めて参ります。	伊藤農業部長